

東芝テック株式会社 静岡事業所(三福) サイトレポート情報	
所在地	静岡県 伊豆の国市 三福 80-2
設立	1999年6月、従業員:25人(2011年4月現在) ※2010年4月より静岡事業所として統合
主要製品	同一建屋内で事業展開する(株)テックプレジジョン実装部門の電子部品調達及び管理
敷地面積	12,941m ² 、建家面積:3,987m ² 、緑化率:25.4%
ISO14001 認証取得	1997年6月(大仁事業所の一部門として取得)
4MS統合定期審査	2009年12月 (ISO認証番号:JJQA-E-80030)



ごあいさつ

2010年4月より、三島、三福、大仁の3拠点を統合し、東芝テック(株)静岡事業所として再編成されました。その中で当サイトは、富士・箱根国立公園に隣接し、狩野川の清流と豊かな自然環境に恵まれた立地条件の中で、(株)テックプレジジョンと共に東芝テックグループの経営理念及び行動基準に基づき行動しています。
また当事業所では、MFP・POSを中心とした情報・流通機器その他の製品に使用される部品(実装基板、プレス・板金、挽物、成形部品・電源、ハーネス部品)の製造を行っており、これらによる環境に対する影響を低減するため環境保全活動を推進しています。



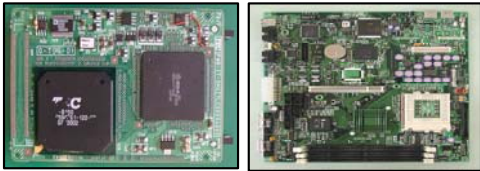
環境保全責任者 榎田信一

2010年度の環境の主な取組み

- ☆ISO14001環境マネジメントシステム
1997年6月に大仁事業所の一部門として認証取得、現在は静岡事業所(三福)として2009年12月に4つのIMS審査を受審し定期審査を完了。
- ☆環境保全体制の充実
法令、条例の順守。現場管理の強化。
- ☆CO2排出量の削減
CO2(エネルギー)総発生量の削減は静岡事業所(三福)の2006年度比60.2%達成(目標64.6%以下)に参画。
- ☆廃棄物ゼロエミッションの継続
廃棄物総発生量の削減は静岡事業所(三福)の2006年度比46.8%達成(目標49.1%以下)に参画。
2010年度の最終処分率は0.04%達成(目標0.08%以下)に参画
- ☆化学物質排出量の削減
事業再構築に伴い2008年度より実装部門がテックプレジジョンに分離した為、化学物質の使用は無くなった。
- ☆全員参加・啓発活動の展開
環境月間・3R推進月間・省エネ月間時の環境啓発活動(IMSニュース)、屋上緑化プランター(435鉢)の管理
- ☆地域との協調
各種環境行事参加: 川の清掃奉仕活動、三島市”せせらぎルート”の清掃等

製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介

【実装基板】



環境コミュニケーションの紹介

- ・環境報告書の発行 : 2002年度より毎年発行
(サイトレポート)
- ・地域との交流(主催) : 箱根の森のダム作り(間伐材を利用した治水活動)
見晴授産園・見晴寮清掃奉仕
伊豆の国市中島区一斉清掃
- ・自治体等主催行事参画: 三島市”せせらぎルート”清掃奉仕活動(空缶、タバコの吸殻等のゴミ拾い)
三島の川をきれいにする奉仕活動(桜川の清掃)



環境方針

東芝テック(株)静岡事業所(三島)・(三福)、
テック製造(株)、(株)テックプレジジョン

IMS基本方針及び行動基準

【序文】

「水と緑と人が輝く夢あるまち・三島」に立地している静岡事業所(三島)を中心として、各組織が一丸となって「かけがえのない地球環境」を守り、次世代に引き継ぐことを責務として、「人を大切にします」「豊かな価値を創造します」「社会に貢献します」という東芝グループの経営理念に基づき、エレクトロニクスを応用した社会に貢献するビジネス機器分野を中心に事業展開して行きます。

私たちは、IMS基本方針と行動基準を守り、お客様・地域の皆様・従業員の満足と企業価値の向上に努めます。

そのために、品質・環境・労働安全衛生・情報セキュリティの統合マネジメントシステムを構築・維持することにより、相乗効果を創出し、バランスの取れた継続的改善に取り組みます。

【IMS基本方針】

1. 統合された目標を達成するための統合マネジメントシステムを維持し更に向上する。
2. 目標設定にあたっては、個々の最適化から全体最適化を図り、バランスの取れた目標を設定して、継続的な改善に取り組む。
3. 目標達成に向けて、リソースを効率的に運用すると共に、社会の動向や事業環境の変化に対し柔軟に対応する。
4. 事業を展開する国内外の法規制、お客様との契約、社内外の規程・規範を遵守する。

2011年5月9日

東芝テック株式会社 静岡事業所
執行役員事業所長

原 康 三 

東芝テック株式会社 静岡事業所 環境行動基準

環境経営の重要な柱として、「環境経営マネジメント」、「エコプロダクツの開発」、「エコプロセスの推進」、「環境コミュニケーションの推進」を掲げ、業務分野での環境負荷低減に貢献する。

1. 「環境経営マネジメント」

- ・事業活動、製品、サービスに関わる環境的側面について、生物多様性を含む環境影響を評価し、環境負荷の低減、汚染防止などに関する環境目的・環境目標を設定・推進し、継続的な改善・向上を図り、定期的な見直しを行う。
- ・環境に関する法令・条例及び組織として受入れを決めた要求事項、自主基準を順守する。

2. 「エコプロダクツの開発」

- ・製品・サービスに使用する材料は開発時・調達時に、RoHS、WEEE、REACHを順守した材料を選定・仕入を行い、東芝グループのグリーン調達方針を推進・実行する。
- ・グローバルに環境調和型製品の提供をするため、3R、省エネルギー、特定化学物質全廃設計によりライフサイクルを通じた環境負荷の低減を推進する。

3. 「エコプロセスの推進」

- ・地域性に配慮し、省資源、省エネルギー、化学物質の適正管理に取り組み、環境配慮生産をおこなう。
- ・「モノ創り」や物流・業務の効率化により、低炭素社会の実現を目指す。
- ・環境に配慮した文房具・OA機器などのグリーン購入を推進する。

4. 「環境コミュニケーションの推進」

- ・東芝テックグループの環境保全活動を推進するため、関係・協力会社に対し指導・支援を行う。
- ・社員一人ひとりが環境活動を推進できるように、環境教育・啓蒙活動を展開し、環境マインドを高める。
- ・環境方針、環境活動について広く社内外へ公開する。
- ・行政、地域、関係団体などと協調し、社会全体の環境活動に参画、協力する。

2011年 05月 09日

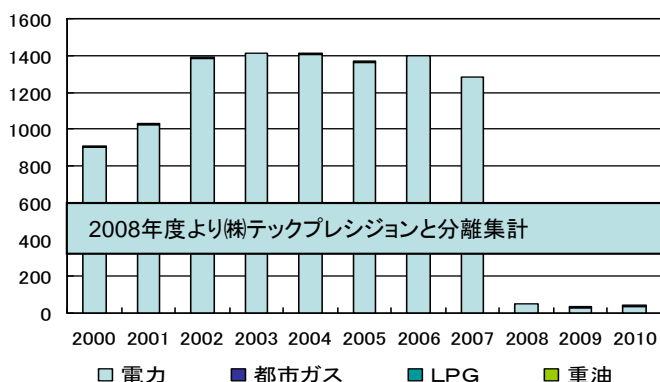
東芝テック株式会社 静岡事業所

執行役員事業所長

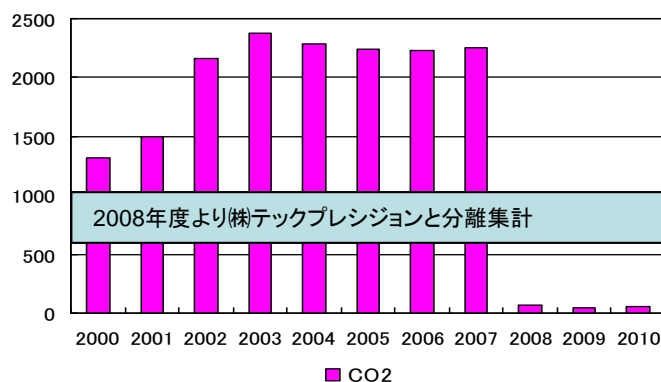
原 康 三 

環境負荷データ

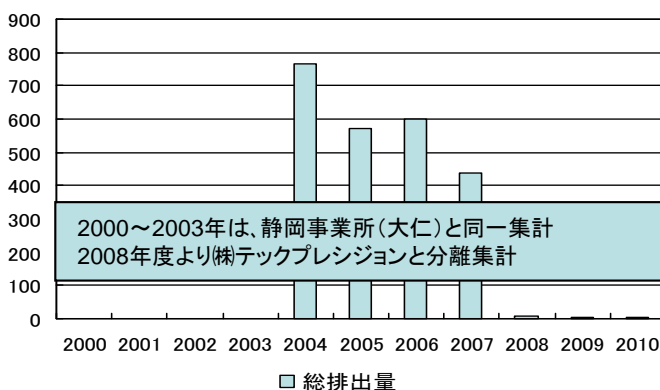
エネルギー使用量(単位:KL)



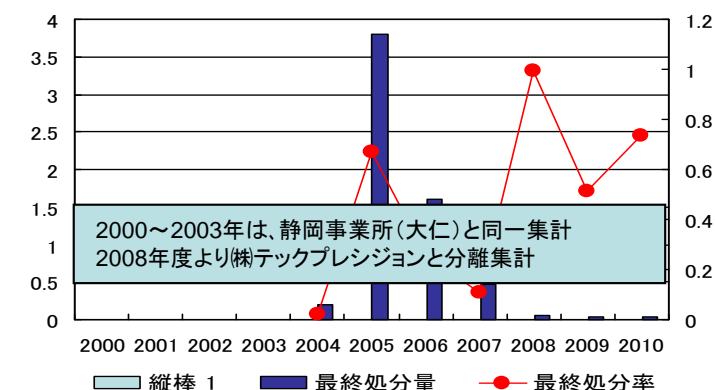
CO₂排出量(単位:トン-CO₂)



廃棄物総発生量(単位:トン)

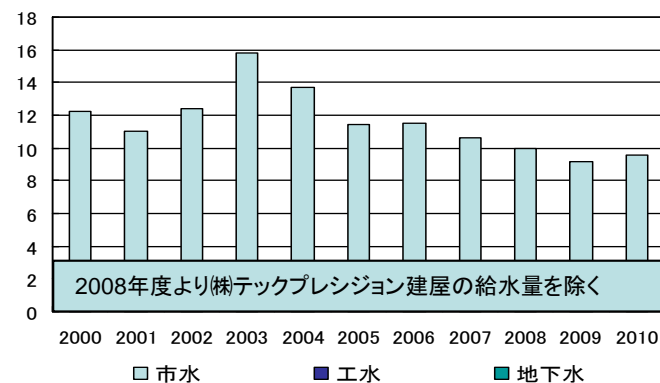


廃棄物最終処分量と最終処分率(単位:トン、%)

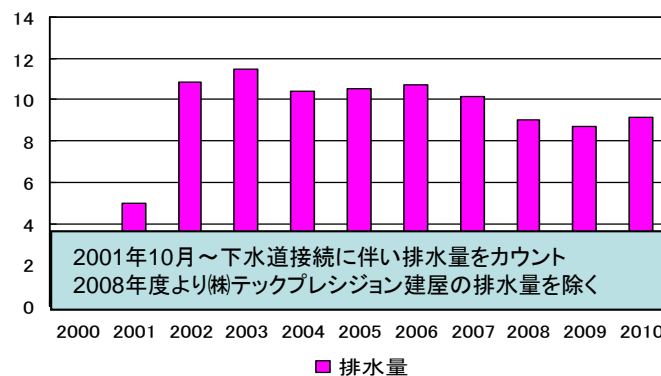


主な廃物名:プラスチック類、事業系一般廃棄物(燃やせるゴミ、食堂ゴミ、食油)等

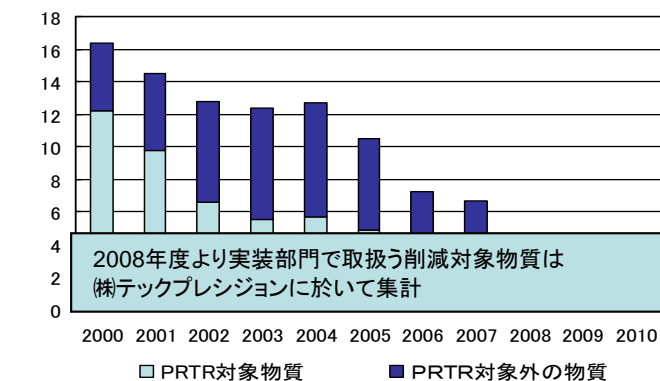
水の使用量(単位:千m³)



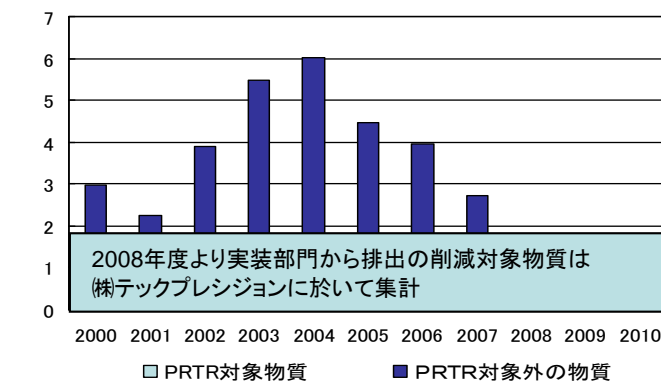
排水量(単位:千m³)



化学物質削減対象物質の取扱量(トン)



化学物質削減対象物質の排出量(トン)



主な化学物質:IPA

遵法管理状況

<大気測定結果> 大気汚染防止法で定める特定施設なし

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx(ppm)	対象外	対象外	対象外	対象外
SOx(Nm3/h)	対象外	対象外	対象外	対象外
ばいじん(mg/Nm3)	対象外	対象外	対象外	対象外

<排水測定結果> 水質汚濁防止法で定める特定施設なし、河川(金山排水路～鍋沢川～狩野川)へ放流

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.8～8.6(水濁法)	5.9～8.5	7.2	2回/年
BOD(mg/ℓ)	25(狩野川上乘せ基準)	—	17.2	4回/年
COD(mg/ℓ)	最大160(水濁法)	—	6.5	1回/2年
SS(mg/ℓ)	50(狩野川上乘せ基準)	40	2.5	4回/年
窒素(mg/ℓ)	最大120(水濁法)	—	—	1回/4年
フッ素(mg/ℓ)	15(水濁法)	—	—	1回/4年

<騒音・振動測定結果> 静岡県条例、騒音・振動規制法で定める特定施設(騒音関係 66施設、振動関係 3施設)

	測定場所:時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:昼	65dB	—	58.8	2回/年
	敷地境界:夜	55dB	—	54.7	2回/年
振動(dB)	敷地境界:昼	70dB	—	50.5	1回/年
	敷地境界:夜	65dB	—	43.0	1回/年

<その他測定結果> (下水道法:主な測定結果)

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.1～8.9	5.2～8.8	8.2	4回/年
BOD(mg/ℓ)	<600	<550	180.0	4回/年
SS(mg/ℓ)	<600	<550	106.3	4回/年

<環境事故・指導指摘・苦情の有無>

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし

環境目標

2011年度のサイトの主な環境目標

推進項目	指標	2011年度目標
地球温暖化の防止	CO2総排出量 2006年度基準	59.6%以下 ※総排出量見込:1,326t-CO2
	水受入量(使用量) 2010年度基準	101.0%以下 ※水受入量見込:10,120m3
資源の有効活用	最終処分率	0.08%以下
	廃棄物総発生量 2006年度基準	47.5%以下 ※総発生量見込:289.0t
化学物質管理	大気・水域への排出量 2006年度基準	49.0%以下 ※排出量見込:1.795t

環境目的

2012年度のサイトの主な環境目的

推進項目	指標	2012年度目標
地球温暖化の防止	CO2総排出量 2006年度基準	59.5%以下 ※総排出量見込:1,324t-CO2
	水受入量(使用量) 2010年度基準	88.8%以下 ※水受入量見込:10,250m3
資源の有効活用	最終処分率	0.07%以下
	廃棄物総発生量 2006年度基準	42.6%以下 ※総発生量見込:259.2t
化学物質管理	大気・水域への排出量 2006年度基準	45.8%以下 ※排出量見込:1.678t